2023 年度日本天文学会天文教育普及賞

【授賞者】天文学普及プロジェクト 天プラ
【活動名】新たな視点と形態による天文学の対話的活動

「天プラ」は 2003 年 7 月、当時東京大学大学院の天文学専攻の大学院生であった高梨直紘、平松正顕両氏が立ち上げたグループである。当初は天文学を専攻する大学院生がプラネタリウムと協力することを狙った活動であったので「天文学とプラネタリウム」と名乗って活動を始めたが、これはすぐに略されて「天プラ」という名称が定着した。天プラは、日常的な人間関係やメーリングリストなどを介して「ウィークタイズ（weak ties）」でつながったグループであり、「活動が発生する場」であると同時に、天文学と社会の新しい関係を構築するシンクタンク的な存在になりつつある。特に、自分が楽しむことが重要で、天文学の広報や普及を主要な目的に掲げていないことが天プラの特徴と言える。

天プラのユニークさは、さまざまなセクターの、さまざまなレベルの団体と連携・協力し、多種多様な活動を行っているところにある。それが天プラの経験を豊かにするとともに、その知名度を高め、マスコミにもその活動が頻繁に紹介されている。天プラが実施した多種多様な活動としては主に（1）天文分野で日本ではかなり初期の段階で開催したサイエンスカフェ（札幌市、2005 年）、アストロクラブ（こども対象、三鷹四小、2006 年~）、六本木天文クラブ（大人対象、森ビル、2009 年~）などをはじめとする観望会・講演会活動を年間数十件程度開催するという天文普及活動、（2）天文トイレットペーパー（Astronomical Toilet Paper：ATP、2005 年発売）、あすとろかるた（2006 年）、一家に 1 枚宇宙図（2007 年、2013 年、2018 年）、デジタル天体収集帖（2023 年）など、天文教育普及に関わるグッズ・教材の開発、（3）若手キャリア支援、企業人材の育成支援、市民の意識調査などの天文コミュニティ活動、などが挙げられる。

変化の速度が極めて速い現代社会では、多様性が重要視され、個々人の価値観も多様化してきている。このような多様な価値観が生まれる変化の速い社会の中で、天文学の現代社会における価値について、対話的な活動を通じて探求し続けてきた天プラの活動が 20 年も継続してきたことは注目すべきであり、天プラによる新しい視点と形態による活動は、社会と天文学の関わりに大きな価値創造をもたらす可能性を秘めている。また、2023 年から 2025 年まではプラネタリウム 100 周年の期間である。天プラの活動はその名称からも伺えるように、現在各地で行われているプラネタリウムを含めた天文普及の多様な活動の良い例ともなっており、今回は良い受賞のタイミングと考える。以上より、このようなこれまでの活動を高く評価して 2023 年度天文教育普及賞を授与する。